

アレキサンドリアからの手紙

(E-JUST : Egypt-Japan University of Science and Technology)

大阪大学大学院工学研究科
電気電子情報工学専攻教授

河崎 善一郎

3. レストラン事情

私の住むアレキサンドリアは、エジプト第二もしくは第三と言われ、人口400万を越す大都会である。それゆえアレキサンドリアの中心街には、古い街並みながらきらびやかなショウウィンドーが長く続く商業都市である。ちなみにアレキサンドリアの街は、地中海沿いに東西に長く発達した街で20～30kmの広がりがあるのに、南北は極めて狭く5～6km程度しかない。一方郊外には大工業地帯も控えているので、この街には工業都市の気配もある。それにもまして地中海に面した風光明媚で、夏ともなればリゾート客がヨーロッパ各地から訪れるそうで、一大消費都市と言っても過言でない。加えて、これが私達魚文化で育った日本人には嬉しいのだが、地中海の魚介類がふんだんに採れるという漁業の街でもある。一説では「美味しい魚は、全部首都カイロに運ばれるので・・・。」との事ながら、それでも魚介類中心とするレストランが少なくない。余談ながら回教徒の国だけに、ビールやワインを取り扱うことのできるレストランは限られており、せっかくの魚料理がアルコール抜きとならないよう、よくよく選んで訪れる必要がある。

さて、その魚料理のレストラン、どの店もほぼ同じ様な形態である。つまり店先にはアレキサンドリア漁港に水揚げされた魚貝類が、氷の台にあふれんばかりに並べられている。席に着いたら、また氷の台まで戻り好きな魚を選ぶのである。選んだ魚は計量され価格が決まるのだから、時価という事になる。ただ、氷の台といえども神経質な方なら些か生臭く感じられるかも知れない。それでも調理して出される品々は、結構美味だから嬉しい限りである。ちなみに氷の台には、鯛・きんき・イカ・あさり・海老といった私達に馴染みの魚から、地中海原産と言われる見た事もない魚が並んでいるので、匂いさえ少し我慢できれば、見るだけでも結構楽しい。なお調理法は、塩焼きに近いもの

から、バター焼き、ムニエルとお好み次第、カルパッチョを楽しむことができる程新しい物もある。さらにイカにいたっては、日本でいうイカリングに相当するものがあるので、最高である。

3. タクシー事情

アレキサンドリアのタクシーの事は話したい。一流ホテルの敷地内には、ボディがブルーのタクシーが停まっている。そしてホテル客がエジプト人で無い様な場合には、「タクシー！タクシー！」としつこい程に呼びかけてくる。日本語でいう客引きである。この手のタクシーは総じて料金が割高になっているらしい。らしいとあやふやな表現をするのは、当地に赴任して9ヶ月になるけれど、一度も利用した事が無いから・・・。確認はしていないけれど、料金メーターが付いていないか、付いていたとしても値段交渉で走るので、メーターの意味をなしていないかのどちらかであろう。

これとは別に、Fast Call と呼ばれている、日本でいうならハイヤーに属する料金メーター付きのタクシーもある。日本の料金に比べれば安いに違いないが、当地の物価から判断してべらぼうに高い。以前所用で遅くなり、分乗して利用しているマイクロバス



に乗れなかった際、一度だけ利用した事がある。エアコンは当然のこと、整備も良く行き届いており、乗り心地は日本のタクシーにも遜色ない。運転手も片言ながら英語が通じるので、値段だけの事が有ると言ったところである。それに運転マナーもそれなりにまともで、安心して乗っている事が出来る。ちなみにアレキサンドリアから職場のあるボルゲルアラブまでの60km、日本円換算3000円程度であった。料金メーター通りに払えば良いので、気分的にはずっと楽である。

そして私が常日頃、黄色タクシーと面白がって命名した、この地の少し裕福な一般大衆が利用するタクシー。当地に来た当初、「先ず値段交渉をして乗るべき！」となんの根拠もなく考えたけれど、結局当地諸先輩たちの薫陶を受け、阿吽の呼吸も覚えた。ただそもそも「車体が古い上、整備が限りなく悪く、さらに運転マナーも最悪」と三重苦なのである。それに運転手は自分のシートを可能な限り後ろに下げて運転しているの、一番安全な筈の運転手の後のシートには、

とても腰を下ろす事が出来ない状態である。この黄色タクシー、慢性的に過剰気味の自動車で溢れるアレキサンドリアの道路を蝶の様に舞うが如く右に左に蛇行しながら疾走するのである。それゆえ肝を冷やしながら目的地に着いた後「ショコラン（ありがとう）！」と言い、阿吽の呼吸で運転手に払うのである。ちなみに阿吽の呼吸の目安、私の場合は時間を目安とし、2分に付き1ポンド（1エジプトポンド15円）支払うようにしている。ただ二人で乗った時は5割増。というのもこの地では知らぬ者同士の相乗りがまかり通っているからだ。一人で乗っているとタクシー待ちの客が平気で呼び止め、運転手に行き先を告げる。先客と同じ方向なら乗せて走るとい、何とも不思議な相乗りなのである。

(続く)

(通信 昭和48年卒 50年修士 53年博士)

*** 事務局から ***
**年会費会員みなさまへ
 免除会員のお知らせ**

平素は会費納入にご協力いただきありがとうございます。

年会費会員の方は卒業後50年経過しますと会費免除となります(会費規定第6条)。

平成23年度より昭和36年卒業の会員の皆様が、免除会員となりました(会誌送付や諸行事への参加等今までと変わりはありません)。

今年から免除になられた皆様、及びすでに免除になっておられる会員の皆様には、長い間の会費納入誠にありがとうございました。今後も工業会へのご支援・ご協力のほど宜しくお願いいたします。

昭和37年卒業の会員様におかれましては、本年度の会費納入をもって免除会員となります。

お忘れなく納入下さいますようお願い申し上げます。